

8月定例所長会見における千野所長挨拶内容

来月から開始する地下探査について

当発電所では9月初旬から10月下旬までの間、起震車を使った地下探査を実施します。調査ルートについては、柏崎平野を東西に横断する2ルートに加え、発電所構内から柏崎市松波までの海沿いのルートと刈羽村十日市のルートを補完的に行うこととしていましたが、地域の方々からのご要請を踏まえて検討した結果、補完ルートである北-2側線を大湊側に約1km延長して合計約2kmとすることといたしました。これによって、多くの地域の方々から、「今回の地下探査は信頼のにおける調査である」とご理解いただけるものと期待しているところです。

なお、地下探査は9月初旬からスタートします。

ISO9001の第1回定期審査について

当発電所では今年3月に、国際標準化機構の品質マネジメントシステムであるISO9001を取得しましたが、今月2日から3日間のスケジュールで1回目の定期審査を受審しました。対象は審査機関が指定した発電所内11グループと本店内で関連する8グループでしたが、審査機関からは「本審査時の指摘事項は適切にフォローされており、品質マネジメントシステムは効果的に継続して運用されている」との評価をいただいております。私どもとしては、業務の改善や標準化などの品質保証活動は的確に実践できていると感じているところです。

ISO9001認証を維持するためには、今後もそれぞれの業務が決められたルールに基づいて実施され、PDCAを廻しているかという観点で、半年ごとに指定されたグループが審査を受け、3年後には全グループが本審査を受けることとなります。

安全協定にあるとおり、品質保証活動に対する第三者評価は地域とのお約束でもあり、今後も品質マネジメントシステムの定着度合いを的確に把握し、安全で品質の高い発電所としてご信頼いただけるよう努めてまいります。

地域との信頼の絆を確立する取り組みについて

私どもは4年前に不祥事を公表した8月29日を忘れないために、今年も協力企業作業員へのあいさつ運動、私や本店幹部からのメッセージを発電所員に伝える臨時所員集会、周辺道路の清掃活動などを行います。

また今回は、地域との信頼の絆を深める新たな試みとして、地域の皆さまに私どもの安全に対する思いをお伝えするために作成した「安全の芽を育て、安心の花を咲かせます。」というメッセージに則って、サービスホール周辺の国道沿いに花の苗を植栽するイベントを行う予定です。

詳細が決まりましたらご案内する予定ですが、私どもとしては、このような機会

を通じて、社員一人ひとりが重要なインフラであるエネルギーに携わる者としての自覚と誇りを持ち、世界レベルで評価をいただける安全・安定運転と地域への貢献を通じて、地域の信頼を高めていくことを所員一同が再確認したいと考えています。

定期検査中の4号機の原子炉再循環系配管について

すでにお知らせしていますが、ひびが確認された4号機の原子炉再循環系配管の1継手については、今回の定期検査で実施している応力腐食割れ対策に合わせて取り替える予定です。取替工事については、今月下旬から開始し、取り替えた継手部分に関しても、ひびが発生しないよう応力腐食割れ対策を行います。従いまして、定期検査は当初の日程である9月下旬の発電開始を延伸し、発電開始は12月中旬頃になる予定です。

当発電所では今後も原子炉再循環系配管の応力腐食割れ対策を計画的に実施し、その際にひびが確認された場合は、健全性評価制度にもとづいて適切に評価するとともに、その対応については地域の皆さまにわかりやすくご説明してまいりたいと考えています。

以 上

添付)

- 柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX
- プレス公表(運転保守状況)

柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX(平成18年8月)

平成18年8月10日

発電所運転状況

プラント名	現在の 運転(発電)状況	前回定期検査	過去1年間の運転状況								補足説明
			9	10	11	12	1	2	3	4	
1号機 1,100MWe (S60.9.18運開)	運転中	第14回 H17.6.14 ~ H18.5.30 停止期間 H17.6.14 ~ H18.4.30 (321日) (原子炉起動H18.4.26)	第14回定検による停止								[2号機] ・使用済燃料貯蔵プール、リラッキング工事(第二期)終了。 [3号機] ・7月27日に発電開始。(お知らせ済み) [5号機] ・使用済燃料貯蔵プール、リラッキング工事(第二期)終了。 [7号機] ・高感度オフガスモニタの指示値が上昇したことから、7月19日からプラントの出力を下げ、燃料棒の被覆管に微小な孔が発生しガス状の放射性物質が原子炉冷却材中に漏れ出た可能性のある範囲の燃料集合体を特定。当該範囲付近の制御棒を挿入し、7月25日出力上昇を開始、7月31日定格熱出力一定運転へ復帰。(8月1日よりコストダウン運転中)
2号機 1,100MWe (H2.9.28運開)	運転中	第11回 H17.9.3 ~ H18.5.9 停止期間 H17.9.3 ~ H17.12.25 (114日) (原子炉起動H17.12.22)	第11回定検による停止								
3号機 1,100MWe (H5.8.11運開)	第9回定期検査中 停止期間:H18.5.12~H18.7.27 現在調整運転中	第8回 H17.1.18 ~ H17.6.8 停止期間 H17.1.18 ~ H17.5.13 (116日) (原子炉起動H17.5.10)	第9回定検による停止 原子炉手動停止								
4号機 1,100MWe (H6.8.11運開)	第9回定期検査中 停止期間:H18.4.9~	第8回 H16.8.7 ~ H17.4.20 停止期間 H16.8.7 ~ H17.3.25 (231日) (原子炉起動H17.3.22)	第9回定検による停止								
5号機 1,100MWe (H2.4.10運開)	運転中	第11回 H17.7.4 ~ H17.11.2 停止期間 H17.7.4 ~ H17.10.8 (97日) (原子炉起動H17.10.8)	第11回定検による停止								
6号機 1,356MWe (H8.11.7運開)	運転中	第7回 H17.12.10 ~ H18.5.12 停止期間 H17.12.10 ~ H18.4.13 (125日) (原子炉起動H18.4.10)	第7回定検による停止								
7号機 1,356MWe (H9.7.2運開)	運転中	第6回 H17.3.1 ~ H17.8.2 停止期間 H17.3.1 ~ H17.6.23 (115日) (原子炉起動H17.6.20)									

プラント名欄に記載してある出力は「定格電気出力」

発電所設備利用率(%) (7月末現在)	
7月	73.9%
18年度累計	74.6%
運転開始後累計	77.2%

発電所発電電力量(MWh) (7月末現在)	
7月	4,517,514
18年度累計	17,948,254
運転開始後累計	753,294,958

ドラム缶発生量(本) (H18年度第1四半期)	
当期発生本数	1,149
貯蔵庫累積貯蔵本数	19,402
貯蔵庫保管容量	30,000

使用済燃料貯蔵体数(体) (H18年度第1四半期)	
使用済燃料貯蔵プール貯蔵体数	12,084
使用済燃料貯蔵プール管理容量	16,629
使用済燃料貯蔵プール貯蔵容量	22,193

構内従業員データ(人) (8月1日現在)

	東京電力			協力企業		比率
	人数	比率	人数	比率		
県内	柏崎市	784	2,326	62%		
	刈羽村	70	229	6%		
	その他	77	619	14%		
	小計	931	3,174	82%		
県外	112	817	18%			
合計	1,043	3,991	-			
		5,034	100%			
協力企業社数(社)		532				

来客情報(人) (7月末現在)

	7月	年度累計
	地元	1,535
県内	2,604	9,096
県外	4,252	10,563
国外	57	137
合計	8,448	24,968

今後の主なスケジュール

予定日	内容
8月10日~16日	サービスホール夏休みイベント(サービスホール)
8月12・19・20日	第9回ジュニアサイエンスアカデミー
8月26日	東京電力 ミュージックライブ アット カムフィー(カムフィー)
9月10日	カムフィーイベント ~わなげ~ (カムフィー)
9月14日	次回定例所長会見予定
9月21日	ヨーガ教室(カムフィー)
9月21・22日	第120回名画鑑賞会(柏崎エネルギーホール)

インターネットホームページアドレス
<http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/index-j.html>

東京電力株式会社
 柏崎刈羽原子力発電所
 広報部
 0257-45-3131(代)

プレス公表（運転保守状況）

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
	1月31日	4号機	原子炉再循環ポンプ（A）軸封部の監視強化について（区分）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1月17日、原子炉再循環ポンプ（A）の第2段軸封部（メカニカルシール）の圧力にわずかな上昇傾向がみられ、その後も圧力の上昇傾向は緩やかに継続していることから、1月30日より関連パラメータの確認頻度を増やし、監視を強化することとした。 ・ 4月9日から第9回定期検査に入り、メカニカルシールの点検を実施した結果、第1段軸封部の静止リングと回転リングのシール摺動面に傷および面荒れを確認したことから、第2段軸封部の圧力が上昇した原因は当該シール面の接触状態が安定していないこと、および微細な異物が当該シール面にかみ込んだことによるものと推定。 ・ 当該軸封部については、今回の定期検査中に取り替える予定。今後は、従来から実施している異物混入防止管理を徹底するとともに、メカニカルシール摺動面の更なる安定性向上に向けた開発を進めることとする。 <p>（前回お知らせ文） http://www.tepco.co.jp/kk-np/nuclear/pdf/18013101.pdf</p>
	7月12日	2号機	協力企業作業員の計画線量超えの発生について（区分）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7月11日、2号機の原子炉建屋およびタービン建屋の管理区域内において0.8ミリシーベルト/日の計画線量で定期的な放射線測定作業を実施していた協力企業の作業員1名が管理区域から退域したところ、1日の作業で受けた放射線量の合計が計画線量を超え、1.03ミリシーベルト/日であったことが確認された。 ・ 原因は、当該作業員は警報付個人線量計の警報が発報したものの、定期的な放射線測定業務であることから測定作業を継続して行ったことによるものと推定。 ・ 今後は、高線量下における線量管理を適切に実施するため、個人線量計の警報が発報した作業員を直ちに再入域させないための入退域管理装置のソフトウェアを変更（9月末を目途に実施予定）するとともに、現在、全作業員に対する個人線量計の警報発報時の対処方法の再教育および高線量下作業の作業員に対する事例検討会を実施中（8月上旬終了予定）。 <p>（前回お知らせ文） http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/press_kk/2006/pdf/18071202.pdf</p>

プレス公表（運転保守状況）

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
	7月19日	7号機	気体廃棄物処理系の高感度オフガスモニタの指示値上昇について（区分）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7月18日、気体廃棄物処理系の高感度オフガスモニタの指示値に上昇傾向が認められたことからオフガス（排ガス）をサンプリングして分析を行った結果、当該処理系のオフガスの放射能濃度が上昇していることを確認。ガス状の放射性物質については気体廃棄物処理系で減衰処理されており、排気筒モニタの指示値に変動は見られないことから、外部への放射能の影響はなし。 ・ 当該処理系のオフガスの放射能濃度が上昇した原因としては、燃料棒の被覆管に微小な孔が発生し、ガス状の放射性物質が原子炉冷却材中に漏れ出た可能性が考えられる。そのため、関連パラメータの監視強化を行うとともに、7月19日からプラント出力を下げた状態で制御棒を操作し、7月23日、放射性物質が漏れ出ている可能性のある燃料集合体があると考えられる範囲を特定し、その周辺の制御棒4本を全挿入して当該燃料集合体の出力を抑制した上で、7月25日よりプラント出力上昇を開始し、7月31日定格熱出力一定運転へ復帰。 ・ 今後、次回定期検査時に当該燃料集合体を特定する予定。 <p>（前回お知らせ文） http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/press_kk/2006/pdf/18071901.pdf</p>